

★☆☆ボランティア川柳受賞作決定☆☆★

長崎県社会福祉協議会では、平成29年9月1日（金）～10月13日（金）の期間中、長崎県在住の方で、サマーボランティア・キャンペーン期間中（7～9月）に活動した方や、普段ボランティア活動をしている方を対象に、ボランティア川柳を募集いたしました。

去る11月15日（水）に選考委員5名による選考会を開催し、厳正な選考を行いました。結果、下記のとおり、各部門の受賞作が決定いたしました。なお、選考会において、選考委員よりいただいたコメントも、併せて掲載しております。

●ジュニアの部（中学生以下）

「初対面 ボランティアして 友達に」

長崎市／草加 陽菜乃さん

コメント

- ・ボランティア活動は、人のためだけで行うものではなく、ボランティア活動を通して、初めて会った人と友達になれるなど、ボランティア活動の良い面を発見できている。
- ・また、これから継続して、展開されることが感じられ楽しみであり、素晴らしい川柳である。

●学生の部（高校生、大学生）

「ささやかな 気遣いが持つ 重み知る」

長崎市／森 恭佑さん

コメント

- ・自然に想いが伝わる作品で、共感できる内容である。
- ・ボランティアという小さな気遣いが、相手に対して良いことにつながると重みを感じている。
- ・ボランティアの行為に対して言葉を表現しているところが素晴らしい。完璧な川柳。

●一般の部

「差し出す手 それも小さな ボランティア」

壱岐市／松永 和子さん

コメント

- ・「それも小さな」という表現が面白く、素晴らしいテクニックを感じた。
- ・綺麗にまとめられており、すんなり思いが伝わってくる川柳である。

●シニアの部（65歳以上）

「車椅子 そっと手を貸す ボランティア」

南島原市／佐原 太子さん

コメント

- ・ボランティアは漠然としているが、その中でも、具体性がある表現をしており、情景が浮かんでくる。
- ・ありきたりな内容なのかもしれないが、普段の暮らしの中に、ボランティアをするところがあるのだと伝わる川柳である。

選考委員：岩本 和夫（長崎県社会福祉協議会 地域福祉部長）

田上 勝朗（NPO 法人ボランティアスクール

僕が僕であるために 代表）

竹中 晴美（フリーランス・コピーライター）

永石 珠子（長崎番傘川柳会 代表）

三浦 尚（株式会社 長崎新聞社 販売局 読者ふれあい室）

受賞者の皆さま、おめでとうございます。

また、ご応募いただきました皆様、ありがとうございました。

本会では、これからも地域福祉活動の推進に努めてまいります。

今後も、ご協力の程よろしくお願いいたします。

選考会の様子

